



## ■最近の話題

### 第4回水資源環境フォーラムが開催されました

平成28年8月10日、藤崎町の町文化センターで「第4回水資源環境フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、岩木川環境公共ネットワーク協議会が毎年開催しているもので、今年は岩木川流域の地域住民や行政の担当者などの関係者が約300人参加しました。

はじめに、青森公立大学経営経済学部の大矢准教授が「水資源を活用した地域の活性化について」と題して講演を行いました。「生活環境」、「観光資源」、「農業振興」の3つの視点から水資源の活用方法を紹介しました。大矢准教授は、「水資源を活用できるかできないかは人次第であり、我々の選択と行動にかかっている。今後は、若い人にも水資源の素晴らしさを伝えていく努力しながら、豊かな水資源や資産の担い手を育てていくことも考えた活用方法を考えるべき。」と講演の最後を締めくくりました。



【青森公立大学の矢准教授】



【木村太郎衆議院議員】

続いて、木村太郎衆議院議員が「岩木川をはじめとする、故郷の社会資本整備について」と題して講演を行いました。木村議員は、青森県の公共事業の事例を紹介しながら、社会資本整備の在り方や必要性について説明し、その上で、「河川改修にあたっては、河川環境の保全も考慮すべきであり、国交省だけでなく農水省や環境省の事業を使いながら、地域の川の整備、安全な地域づくり、そして、きれいな川の流れ・環境を作っていくことに引き続き努力していかなければならない」と環境面への配慮の必要性について強調されました。

最後は、大矢准教授をコーディネーターに、黒石市の高樋市長、藤崎町の平田町長、西目屋村の関村長、国交省青森河川国道事務所の佐近所長、県農村整備課の野中課長の5人がパネリストとなり、「これからの岩木川との付き合い方について」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネリストからは、河川整備後の管理の在り方や水資源と環境公共の関係、防災意識を高めるための環境教育の必要性、観光資源としての活用の仕方などの様々な意見が出され、活発な意見交換がなされました。



【パネルディスカッションの様子】

## ■「環境公共」事例紹介

### 五戸川地区（八戸市・三戸郡五戸町） ～ 五戸川における環境公共の取組 ～

#### 1 地区の概要

太平洋に注ぐ二級河川五戸川に設置された頭首工には、魚道が整備されておらず、頭首工の段差が魚類の遡上を妨げている状況にありました。

近年の、環境に配慮する住民意識の高揚や魚道整備要望の新聞掲載を契機に、五戸川の河川環境と生態系の保全を目的とした県営五戸川地区農業水利施設魚道整備促進事業が平成22年度から実施されています。

魚道の形式及び構造は、専門家を交えた魚道検討委員会により決定しました。現在、事業計画の6箇所のうち、4箇所の魚道整備が完了し、平成30年度の事業完了を目指しています。完成した魚道で遡上調査を実施したところ、アユやサクラマス等の遡上を確認され、魚道の機能が発揮されていることが確認されました。



【整備された魚道（赤畑堰）】

#### 2 活動内容

本地区では、既存の組織を構成員として、五戸川流域を多様な生物が生息できる自然環境に再生させることを目的とした「魚にやさしい五戸川環境づくりを進める会」を平成20年3月に設立し、地域住民も参加しながら清掃活動や五戸川への稚魚放流会等の活動を続けています。

また、「五戸川イワナ・ヤマメ放流会」では、地元保育園・幼稚園児が参加し五戸川2箇所においてイワナとヤマメの稚魚の放流を行っているほか、成魚の観察会、県民局による環境公共や水循環の説明を行っています。放流用のイワナ・ヤマメの稚魚の購入には効果促進事業を活用しています。



【地元園児による稚魚放流】



【水循環の説明を熱心に聴く園児】

#### 3 今後の取組

平成30年度の事業完了に向けて、残り2箇所の魚道整備を進めるほか、環境の保全に必要な住民活動を根付かせるため、継続した清掃活動や稚魚放流会等の取組を進めていくこととしています。

「環境公共」HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

